

世界標準債券ファンド 〈愛称 ニューサミット〉

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

第101期(決算日2018年8月17日) 第102期(決算日2018年9月18日) 第103期(決算日2018年10月17日)
第104期(決算日2018年11月19日) 第105期(決算日2018年12月17日) 第106期(決算日2019年1月17日)
作成対象期間(2018年7月18日～2019年1月17日)

第106期末(2019年1月17日)	
基準価額	3,805円
純資産総額	10,962百万円
第101期～第106期	
騰落率	△ 3.5%
分配金(税込み)合計	240円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「世界標準債券ファンド」は、2019年1月17日に第106期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっておりま

した。ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

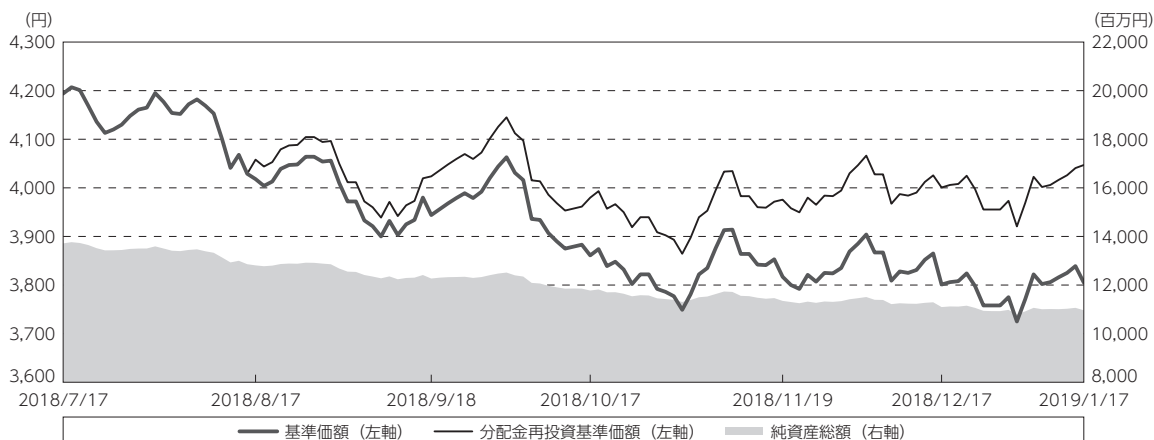
信託期間に関するお知らせ

2019年4月18日付で信託期間を10年更新し「2030年1月17日まで」に変更予定です。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2018年7月18日～2019年1月17日)



第101期首：4,194円

第106期末：3,805円 (既払分配金(税込み)：240円)

騰落率：△ 3.5% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2018年7月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・保有債券からの金利収入を得たこと。
- ・オーストラリアの債券利回りが低下(債券価格は上昇)したこと。

<値下がり要因>

- ・投資対象通貨のオーストラリアドル、メキシコペソ、インドネシアルピア、ロシアルーブルが対円で下落したこと。
- ・メキシコの債券利回りが上昇(債券価格は下落)したこと。

1万口当たりの費用明細

(2018年7月18日～2019年1月17日)

項 目	第101期～第106期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	22 円	0.566 %	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(8)	(0.196)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(14)	(0.354)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.016	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷 費 用)	(1)	(0.014)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	23	0.582	
作成期間の平均基準価額は、3,936円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

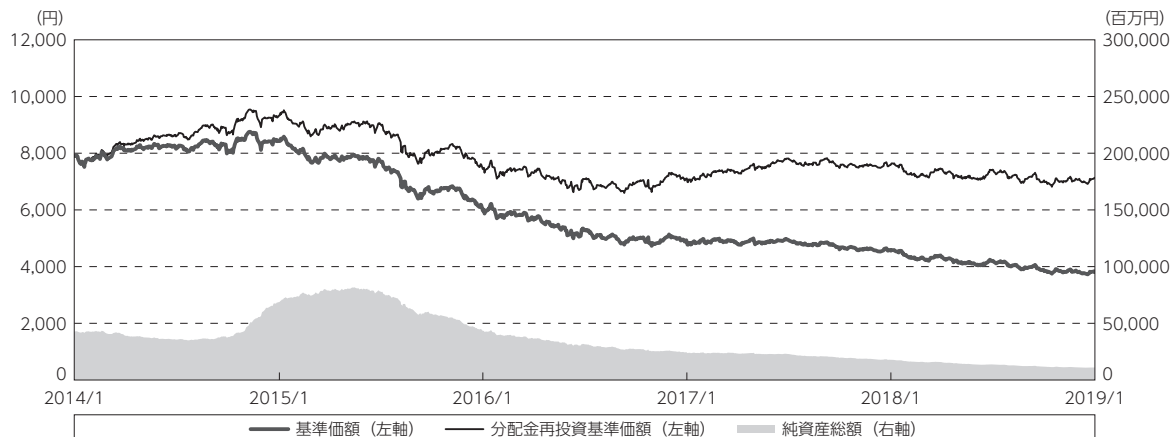
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年1月17日～2019年1月17日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2014年1月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年1月17日 決算日	2015年1月19日 決算日	2016年1月18日 決算日	2017年1月17日 決算日	2018年1月17日 決算日	2019年1月17日 決算日
基準価額 (円)	7,895	8,428	5,972	4,861	4,560	3,805
期間分配金合計(税込み) (円)	—	840	840	840	630	480
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	18.3	△ 20.4	△ 4.4	6.9	△ 6.1
純資産総額 (百万円)	42,726	68,769	43,284	24,169	17,759	10,962

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2018年7月18日～2019年1月17日)

(海外債券市況)

2019年の新興国市場に対するコンセンサス見通しでは、楽観的な見方が大幅に後退しました。新興国市場の政府債務は高い水準を示しており、主要な中央銀行は、年間を通じて利上げまたはバランスシート縮小によって流動性の引き締めを続け、新興国市場の資産にとって逆風となりそうです。また、中国の民間セクターの債務問題も引き続き懸念材料となりました。一方で、新興国市場の経済成長は中国への依存度が相対的に高いことから、先進国経済の緩やかな景気減速によって、中国に依存している新興国経済の成長が相対的に魅力的なものになる可能性があると考えられました。中国経済の鈍化は他の新興国市場にも徐々に波及しているものの、すでに十分織り込まれていると思われます。長引く貿易戦争の影響を考慮する必要がありますが、中国は金融政策と財政刺激策の組み合わせを活用することができ、関税の影響はある程度相殺されると思われます。

2019年の新興国市場に対して弱気な見通しが広がりましたが、個別の新興国市場においては、厳しい環境を乗り切ることができる市場も存在していると思われます。2020年に米国が景気後退入りする可能性から米国の利上げが市場予想より抑制されれば、新興国債券にとって好材料となるかもしれません。また、米中間で本格的な貿易戦争となる可能性は低いと考えています。

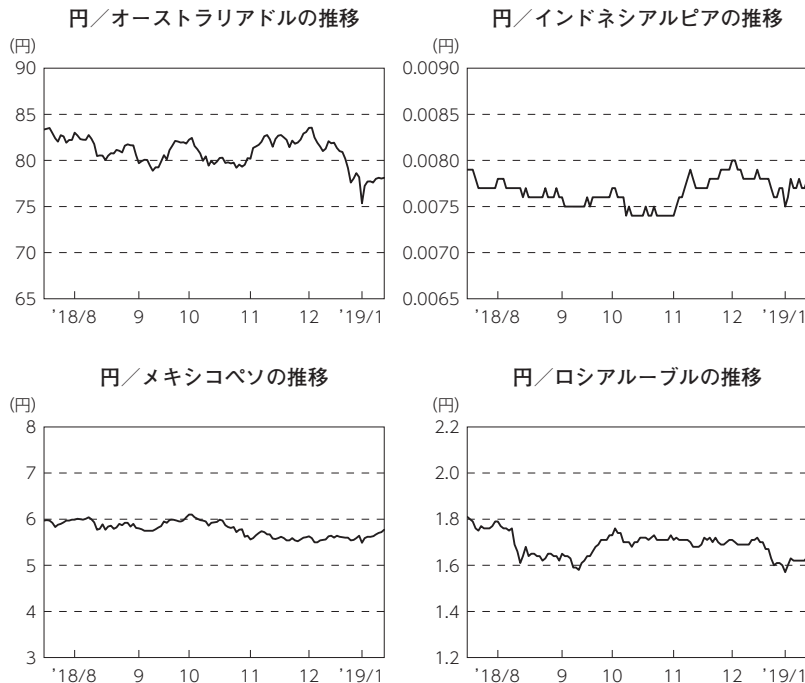
(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.07%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.06%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券(TB)3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.15%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.18%近辺で期間末を迎えました。

(為替市況)

期間中における主要通貨(対円)は、右記の推移となりました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2018年7月18日～2019年1月17日)

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA)

当ファンドでは、メキシコの組入比率を高めとしました。ドナルド・トランプ氏が米国の大統領に選出されたことを受けて、北米自由貿易協定 (NAFTA) を巡る懸念から、メキシコペソは逆風に晒されていました。こうした不安は徐々に払拭されつつあり、米国・メキシコ・カナダ協定 (USMCA) として名称変更された新協定が3カ国によって合意され、米国議会の承認を待っている状態です。また、建設中のメキシコシティ空港の建設取りやめを決定するなど、アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール (AMLO) 大統領による大衆迎合 (ポピュリスト) 的な傾向を巡る懸念や、同大統領が社会政策への政府支出を拡大させるとの懸念によって、メキシコペソは打撃を受けました。しかし、2019年予算案は不安視されていたよりも堅実なものとみられ、基礎的財政収支は黒字が見込まれています。金融政策については、メキシコの長期間にわたる利上げは、米国に対する金利スプレッドが世界金融危機以降で

現在最も拡大した水準にあることを意味しており、そのため米国連邦準備制度理事会（F R B）の決定に影響されない状況です。加えて、メキシコのインフレが低下傾向にあることから、中央銀行のタカ派的な姿勢が評価されています。

また、インドネシアについても組入比率を高めとしました。インドネシアでは、ジョコ・ウィドド（ジョコウィ）大統領のもとで政治環境が大きく改善しました。格付け機関 S & P が 2017 年 5 月に同国のソブリン債格付けを B B + から B B B - に引き上げ、初めて格付け機関大手 3 社すべてから投資適格級が付与されました。フィッチおよびムーディーズは 2017 年から 2018 年にかけて同国ソブリン債の格付けをそれぞれ B B B - から B B B、B a a 3 から B a a 2 にさらに引き上げました。インフレ圧力は抑制的であったものの、インドネシア中央銀行は 2018 年を通じて先制的な利上げサイクルを継続して高い信頼性を示しました。その結果、現地通貨建て債券は足元で高水準なインカムの創出を提供しており、特に過去最低水準近辺にあるインフレの調整後で高水準となっています。

先進国市場では、引き続きオーストラリアを選好しました。オーストラリアの主なリスクは、中国経済の減速とそのオーストラリアの国内生産に与える影響です。中国の債務削減に加えて、米国との貿易摩擦の激化がコモディティ価格の重しとなっていますが、中国当局による金融緩和や財政出動措置の実施、貿易交渉の進展が進めば、リスクは後退するだろうと考えています。国内および世界で経済活動が減速していることから利上げリスクは後退しており、オーストラリアの現地通貨建て債券を引き続き下支えすると考えられます。

ロシアについては小幅な投資比率を有しています。ロシアルーブルは引き続き割安であり、インフレ調整後の利回りは非常に高水準であるものの、投資家はロシアに対して慎重な姿勢を維持しています。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年7月18日～2019年1月17日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2018年7月18日～2019年1月17日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期
	2018年7月18日～ 2018年8月17日	2018年8月18日～ 2018年9月18日	2018年9月19日～ 2018年10月17日	2018年10月18日～ 2018年11月19日	2018年11月20日～ 2018年12月17日	2018年12月18日～ 2019年1月17日
当期分配金	40	40	40	40	40	40
(対基準価額比率)	0.986%	1.004%	1.025%	1.037%	1.041%	1.040%
当期の収益	25	25	26	25	26	26
当期の収益以外	14	14	13	14	13	13
翌期繰越分配対象額	652	637	623	609	595	582

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA)

外的要因に大きく左右されることのない強固なストーリーおよび魅力的なバリュエーションに引き続き注目しています。中期的には、先進国の金融政策正常化のペースが引き続き緩やかなものになる見込みであること、また新興国市場が先進国市場の成長を上回るなか、新興国と先進国の間で成長の乖離が再び拡大し始めているとみられることから、新興国市場に対して強気な見方を維持しています。新興国債券は同質的な資産クラスではないため、一部の低迷が、新興国債券資産クラス全体に波及するとは限りません。ボラティリティ（価格変動性）の高い投資環境が予想され、機動的な運用が必要と考えています。インフレ率に対して金利が高く実質的なインカムの創出が高水準である市場、構造的改革に下支えされた長期的な成長ポテンシャルがある市場、制度的な信頼が強固であり、長期的な世界のトレンドの恩恵を十分に受けられる立場にある市場に着目し、引き続き積極的に新規投資機会を追求していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしく申し上げます。

お知らせ

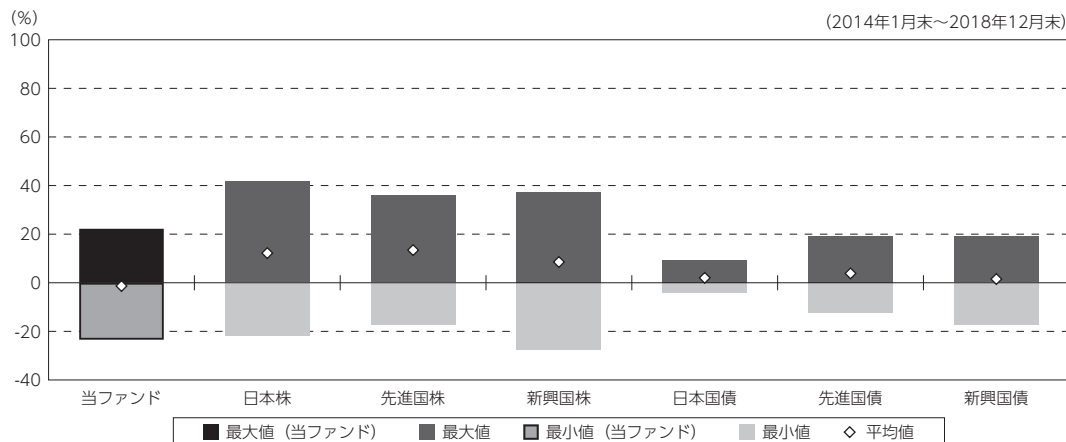
2018年7月18日から2019年1月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年3月18日から2020年1月17日までです。
運用方針	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」 受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」 受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。投資対象通貨の中から3通貨程度を選定し、当該通貨建てのソブリン債券に投資します。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	22.2	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 23.4	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 1.3	12.2	13.4	8.5	2.0	3.8	1.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年1月から2018年12月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2019年1月17日現在)

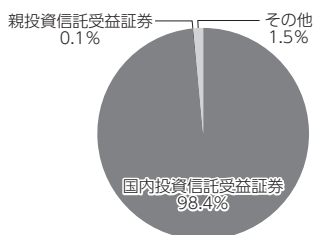
○組入上位ファンド

銘柄名	第106期末
	%
ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA	98.4
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

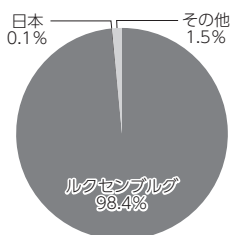
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

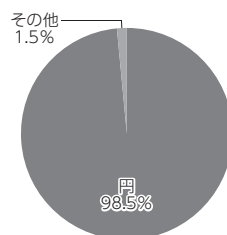
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第101期末	第102期末	第103期末	第104期末	第105期末	第106期末
	2018年8月17日	2018年9月18日	2018年10月17日	2018年11月19日	2018年12月17日	2019年1月17日
純資産総額	12,809,495,473円	12,267,843,937円	11,774,440,893円	11,348,025,030円	11,093,797,680円	10,962,763,659円
受益権総口数	31,877,020,296口	31,101,539,654口	30,493,623,051口	29,728,103,638口	29,184,673,128口	28,808,980,187口
1万口当たり基準価額	4,018円	3,944円	3,861円	3,817円	3,801円	3,805円

(注) 当作成期間(第101期～第106期)中における追加設定元本額は444,199,624円、同解約元本額は4,336,293,349円です。

組入上位ファンドの概要

ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2017年3月1日～2018年2月28日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2018年2月28日現在)

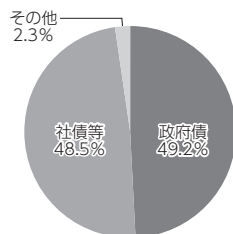
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1 Indonesia Treasury Bond 7.50% due 05/15/2038	政府債	インドネシアルピア	インドネシア	9.6
2 Mexican Bonos 7.75% due 05/29/2031	政府債	メキシコペソ	メキシコ	9.5
3 Australia Government Bond 3.00% due 03/21/2047	政府債	オーストラリアドル	オーストラリア	9.4
4 International Finance Corp. 7.00% due 07/20/2027	社債等	メキシコペソ	国際機関	9.0
5 Inter-American Development Bank 7.06% due 07/25/2019	社債等	インドネシアルピア	国際機関	6.7
6 Inter-American Development Bank 7.88% due 03/14/2023	社債等	インドネシアルピア	国際機関	6.1
7 Mexican Bonos 8.00% due 12/07/2023	政府債	メキシコペソ	メキシコ	5.6
8 Bank Nederlandse Gemeenten NV 3.25% due 7/15/2025	社債等	オーストラリアドル	オランダ	4.6
9 European Bank for Reconstruction & Development 0.50% due 09/01/2023	社債等	オーストラリアドル	国際機関	4.3
10 Mexican Bonos 10.00% due 11/20/2036	政府債	メキシコペソ	メキシコ	4.1
組入銘柄数	25銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

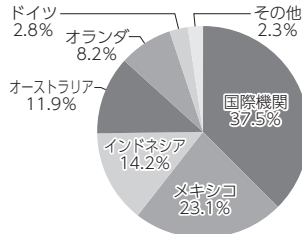
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) 国 (地域) につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

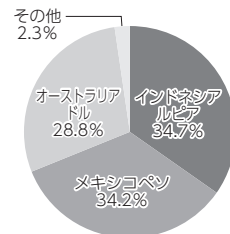
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



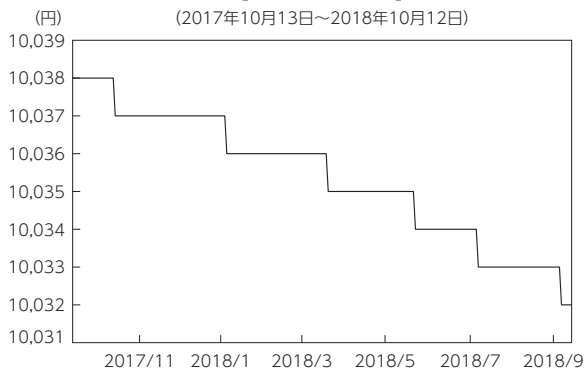
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年10月13日～2018年10月12日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年10月13日～2018年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	1 (1)	0.006 (0.006)
合 計	1	0.006

期中の平均基準価額は、10,035円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2018年10月12日現在)

2018年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。